

自由民権運動「秩父事件」の渦中にいた人物のその後を小説で描く

小説 秩父事件

伝蔵

八木静子

困民党会計長

「われら暴徒にあらず国事犯なり」

本書は一八八四（明治一七）年に起きた民権運動・秩父事件を題材に、貧困にあえぐ秩父困民たちとして戦った主人公井上伝蔵の姿と、そして未発掘であった北海道における伝蔵の軌跡を追い歴史小説として描いた力作。

著者は埼玉県秩父地域に残る事件痕跡の追及はもとより、秩父事件研究の先駆者や伝蔵の逃亡先である北海道の研究者の協力も得て丹念に調査・研究を積み重ね、当時の明治時代という世相をいきいきと重厚な表現で描く。秩父事件は明治政府に逆らった民の「反乱」として近年まで位置づけられていた。しかし秩父の郷土史家をはじめとした先人たちの類いまれなる研究調査によって自由民権運動として再評価され、そして映画化にまで至った。

この「伝蔵」によって「秩父事件」に新たな展開が起きることを願う。



本書あらずじより引用

人らしく生きるのに必要なもの―食へ物家、家族。

貧困によって追い詰められた農民たちは武装蜂起を決意する。秩父の裕福な商家であった井上伝蔵は困窮する農民たちを助けようとするが、政府は救済ではなく武力で応じる。（中略）

…近代化を急いだ当時の日本の人々の苦難と現代日本の課題はまるで歴史をなぞるようではないか。秩父事件は本当に終わったのだろうか。



◎八木静子・著者略歴

1953年（昭和28）2月横浜に生れる。1989年、中央大学大学院東洋史学専攻終了。修士論文作成中に、大月市史を編纂した小林利休宅に寄宿。郡内一揆をはじめとする百姓一揆及び日本近世史の講義を受け啓発される。大学院修了後埼玉県での教職経験を通して、秩父事件に出会う。特に井上伝蔵の生涯に強く惹かれる。現在は神奈川県で高校非常勤講師として勤務。秩父事件研究顕彰協議会員、日本児童文学者協会会員。

本書目次

- 第一章 死刑囚
 - 第二章 生糸の道は横浜へ
 - 第三章 天下の政事を直し、人民を自由ならしめん
 - 第四章 釧路集治監
 - 第五章 野付牛を目指してあとがき
- 秩父事件・井上伝蔵関係年表
参考文献

申込書

小説 秩父事件

伝蔵

困民党会計長

八木静子
(本体 1,700円+税)

ISBN 978-4-89623-169-4

注文数 冊

お名前

電話番号

書店名

まつやま書房 0493-22-4162
Fax 0493-22-4460
〒355-0017 東松山市松葉町3-2-5

まつやま書房

〒355-0017 東松山市松葉町 3-2-5
Tel.0493-22-4162 Fax 0493-22-4460

<http://www.matuyama-syobou.com/>

本体 1700円 + 税
四六判・並製本・286頁
ISBN 978-4-89623-169-4

歴史小説